

2012年度ラガドーン名大祭企画・シナリオ案（from 安武）

お疲れ様です。とりあえず、シナリオを5本ほど考えてみました。多分、他の人と被るネタもあると思うので、適当に使えるやつだけ使ってください。もし足りなければ、もう少し捻り出すことも出来ます。

なお、キャラの設定とか、口調とかがまちまちですが、その辺も、事情に合わせて変えて下さい。あと、子供が遊ぶには難しい用語もちろはら入ってますが、その辺は、対象年齢をどの辺に設定するかを考えた上で、取捨選択して下さい。

依頼1 「子供達の誘拐事件？」

依頼主：学者

「ここ数日、私の子供教室に生徒が誰も来ていない。集団誘拐の可能性もあるから、調べてほしい。

生徒の中には、商人の息子や酒場主の息子もいる」

「子供達を知らないか？」と聞いた場合の反応

→貴族・新聞記者「知らない」

→商人&酒場主「うちの息子は、ちゃんと学者先生の家に行ってるって言ってる」

→靴磨き「そういえば最近、子供達が『龍の玉』がどうか、よく話してるな。

何のことだか分かんが、子供の間で流行っているものらしい」

（証言1「子供達の間での『龍の玉』ブーム」）

「『龍の玉』について聞いた場合の反応」

→商人・酒場主・学者・靴磨き「知らない」

→貴族「な、なんのことかな……（明らかに動揺）」

→新聞記者「それは最近、東方から伝わっている『MANGA』と呼ばれる絵物語の一つだ。

確か、貴族の家には全巻揃っている筈」

（証言2「貴族は『龍の玉』を持っている」）

「証言1」「証言2」を貴族に見せた場合

→貴族「ああ……、バレちゃったか……。ああ、そうだよ。子供達は俺の家に来て、MANGAを読んでる。

だって、可哀想じゃないか。まだ小さいのに、面白くもない勉強ばかりさせられて。

だから、息抜きの時間を与えたかったんだよ。まあ、学者には俺の方からも誤っておくが、

せめて週に一度くらいは俺の家に来てMANGAを読む機会を作ってやってほしい。

俺も、MANGAについて語り合う相手がほしいしな」

（証言3「子供達は貴族の家でMANGAを読んでいた」→クリア）

☆補足・解説

いきなり世界観をぶっ壊す様なシナリオで恐縮ですが、

（19世紀だと、日本においてすらMANGAは存在しないし）

もうちょっと真面目に背景世界との整合性を考慮するなら、

貴族が子供と一緒にゲームか何かで遊んでる、という展開にしても良いです。

あと、酒場主と商人に子供がいることになってますが、シナリオ的には別にどうでもいい部分なので、

他のシナリオと矛盾するなら、変えてもいいです。

依頼 2 【異臭を漂わせる謎の集団】

依頼主：商人

「最近、夜中にウチの商店街の裏路地で、数人で集まっている奇妙な集団がいる。
声をかけようとする、すぐに逃げってしまうのだが、
彼等が去った後、そこには奇妙な異臭が残っているらしい。
気味が悪いので、彼等が何者なのか調べてほしい」

「異臭を残す集団について」（靴磨き以外は「知らない」）
→靴磨き「あぁ、アイツらか。実は数日前から、黒い覆面の男が夜の街に現れて、浮浪者達を相手に、
奇妙な食材を配っているらしい。タダで食わせて、その感想を聞いているとか。
俺も誘われたんだが、そいつの持ってる食材があまりに臭くて、遠慮したんだ。
なんか、腐った豆のような匂いだった。ただ、中にはその匂いが気に入った奴もいるみたいで、
最近、毎晩のように集まって品評会をしているらしい」
（証言 1 「腐った豆を食べ物として配る黒覆面の男がいる」）

「黒覆面の男」について（新聞記者以外は「知らない」）
→新聞記者「そういえば、そんなような男が酒場から出てくるのを見たな」
（証言 2 「黒覆面の男が酒場から出てきた」）

「腐った豆」について（貴族以外は「知らない」）
→貴族「確か、東方にそんなような料理があると聞いたことがある。
俺も一度食べてみたくて、酒場主にメニューに取り入れるように提案してみたんだが、
素人が作ろうとしても、上手く出来ないらしい」
（証言 3 「貴族は酒場主に『腐った豆』料理を依頼していた」）

「証言 1」「証言 2」「証言 3」を酒場主に見せた場合
→酒場主「うーん、完成するまでは、秘密にしておきたかったんですけどね……。
そうです、今、貴族様に依頼された東方の料理『NATTOH』の製法を研究中で、
その味見を、貧民街の人々にやってもらってたんですよ。
あと少しで商品化出来そうなので、ぜひ食べにきて下さい」
（証言 4 「異臭の原因は酒場主の作っていた『NATTOH』」→クリア）

☆最初は、シュールストレミング（スウェーデン産の発酵ニシン）にしようかと思ったのですが、
ちょっと知名度的に厳しいと思ったので、分かりやすく東洋風味にさせていただきました。
（KUSAYAでもいいんですけど）
「黒覆面の男」に関しては、もし他のシナリオにも似たような描写があるなら、
もっと区別しやすい、奇抜な格好にしても良いでしょうね（焦茶色の三角頭巾とか）。

依頼3【行方不明の看板娘】

依頼人：酒場主

「ウチの看板娘が昨日から行方不明なんだ。

長い金髪がトレードマークの『ローラ』という娘なのだが、自宅にも帰っていないらしい。

もしかしたら、彼女のことを気に入っていた貴族様に、連れ去られたのではないかと心配している」

「酒場のローラ」について聞いた場合

→学者「さあ、知らないな。そもそも私は、酒場には行かないし」

→商人「昨日、旅に必要な物を色々と買い込んでいった」

（証言1「ローラは旅支度をしていた」）

→新聞記者「最近、貴族にプロポーズされたらしい、という噂がある」

（証言2「ローラは貴族にプロポーズされていた」）

→靴磨き「昨日、美容院に入っていくのを見たぞ。で、出てきた時には赤毛になってた。

あんな綺麗な金髪だったのに、勿体ない」

（証言3「ローラは髪を赤毛に染めていた」）

→貴族「彼女が行方不明？ し、知らん。知らんぞ。俺は何も悪くない。何もやってないぞ」

「証言2」を貴族に見せた場合

→貴族「ああ、そうだよ……。でもなあ、フラれたんだよ。付き合ってる彼氏がいるらしくてな。

でも、それが誰かは、いくら聞いても全く口を割ろうとしなかった。

多分、俺がそいつに権力を使って嫌がらせでもすると思ったんだろうな。

別にそんなつもりはなかったのに……」

（証言4「ローラには付き合っている男性がいた」）

「赤毛の女性」について聞いた場合（新聞記者以外は「知らない」）

→新聞記者「そういえば、学者の弟子のジャックが、赤毛の女性と一緒に、

マンチェスター行きの馬車に乗るのを見かけたな」

（証言5「学者の弟子のジャックが、赤毛の女性と一緒に街を出た」）

「弟子のジャック」について聞いた場合（学者以外は「知らない」）

→学者「あいつは、実家に帰ったよ。家業を継ぐと言ってた」

「証言3」「証言4」「証言5」を学者に見せた場合

→学者「そうか、そこまで調べがついているのか……。

そう、あいつは、酒場のローラと一緒に、この街を出ていったんだ。

貴族様に目をつけられたら、この街では生きていけない、と言ってな。

正直、あいつも学問の道には挫折しかかっていたし、

これを機に人生をやり直したいと思ったのかもしれない。

とりあえず、貴族様にはこのことは伝えないでくれ。頼む」

（証言6「ローラはジャックと駆け落ちした」→クリア）

☆補足・解説

固有名詞は適当に付けたので、他のシナリオと被るようなら、変えて下さい。

ちなみに、貴族は独身の青年貴族をイメージしていますが、

もしそれも設定と合わないようなら、「登場しないNPC」でもいいでしょう。

その場合、「証言2」→「証言4」のくだりは、誰か目撃者がいたことにすれば良いかと。

依頼 4 【伝説の薬剤師】

依頼主：貴族

「今、私の妹が重病で苦しんでいる。噂によると、この病気を治せる薬を調合出来る『伝説の薬剤師』、この街に潜んでいるらしい。なんとか探し出して、連れてきてほしい」

「（伝説の）薬剤師」について

→酒場主・商人・靴磨き「この街で薬に詳しいといえば、学者なのでは？」

→学者「その噂は聞いたことがあるが、少なくとも私ではない。

確かに、私も少しは薬の配合は出来るが、そこまでの腕ではない」

→新聞記者「その噂は聞いたことがある。確か、左肩に蝶の形のアザがあるらしい」

（証言 1 「伝説の薬剤師の左肩には、蝶の形のアザがある」）

「蝶の形のアザを持つ男」について（学者以外は「知らない」）

→学者「そういえば以前、靴磨きの男に『アザを綺麗に消す方法』を聞かれたことがあったな。

残念ながら、私には分からなかったが」

（証言 2 「靴磨きは『アザを消す方法』を探していた」）

靴磨きに「証言 1」「証言 2」を見せた場合

→靴磨き「……昔の話ですよ、ダンナ。今はもう腕もなまっちゃって、人様の命を預かれる立場じゃない。

だから、隣町にいる私の弟子を紹介します。それで、勘弁してもらえませんか？」

（証言 3 「靴磨きの正体は伝説の薬剤師」→クリア）

☆補足・解説

非常にシンプルな「人探し」のシナリオです。

設定的に無理があるなら、「伝説の料理人」でも「伝説の音楽家」でも構いませんし、別に靴磨きでなくても、誰が「正解」でも構いません。

最後は、弟子云々を言わなくても、

プレイヤーが「ぜひ、あなたの力が必要なんです」と熱意をもって語ってくれるなら、「そこまで言うなら、もう一度頑張ってみましょうか」という流れにしても良いかな、と。

依頼5【届かなかった贈り物】

依頼主：貴族

「隣町の美術品コレクター仲間から、一週間前に貴重な彫刻をプレゼントで送った、という連絡があったのだが、どうやらそれを配達員が途中で落としてしまったらしく、行方が分からなくなってしまっている。中身は不明だが、紅白の縞模様の箱に入っていたらしい」

「紅白の縞模様の箱」について（学者以外「知らない」）

→学者「一週間前、靴磨きが、そんなような箱を持って歩いているのを見た。かなり大きかったな」
（証言1「靴磨きが紅白の箱を持っていた」）

「証言1」を靴磨きに見せた場合

→靴磨き「あ、いや、あれはだな、その、ひ、拾ったんだよ、街外れで。中身は女神像だった。
で、家族の生活費にあてるために、商人に売っちゃったよ。
別にいいだろ？ 拾ったもん勝ちじゃねーか」
（証言2「箱の中身は女神像で、商人に売った」）

「証言2」を商人に見せた場合

→商人「ああ、あの女神像ですか。数日前に、新聞記者の人が買っていきましたよ」
（証言3「女神像は、新聞記者が買っていった」）

「証言3」を新聞記者に見せた場合

→新聞記者「あー、あの女神像な。なかなかいい出来だったから、一目惚れして買ったんだが、
運悪く、買ってるところを酒場主に見られてしまってな。
飲み代のツケがたまってたから、そのカタに取られちゃったよ」
（証言4「女神像は、酒場主が持っていった」）

「証言4」を酒場主に見せた場合

→酒場主「あれは、ウチの店のインテリアにちょうどいいと思って引き取ったんですが、
昨日、それを気に入った貴族様に目をつけられてしまいましてねえ。
どうしても欲しいから、アレを賭けてバックギャモンをしよう、と言われてまして。
私が勝てば、別の彫像を貰える筈だったんですが、運悪く負けて、取られてしまったんですよ」
（証言5「女神像は、貴族が賭けで勝って持っていった」）

「証言1～5」を貴族に見せた場合

→「え？ じゃあ、昨日、俺が手に入れたアレだったのか。
なるほど、まあ、そういうことなら、問題はない。ご苦労だったな」
（証言6「女神像は今も貴族の家にある」→クリア）

☆補足・解説

ただひたすらにたらい回しにされて、最後は全て徒労に終わるという、
全くもって嫌がらせのようなシナリオです。
というか、このシナリオなら、「証言カード」は必要ない気もする。
まあ、一本くらいは、こんな話があってもいいかな、と。